

「花崗岩を通して、地域を考える」受講生の感想

つくば市立手代木中学校科学部¹⁾・つくば市立手代木中学校美術部¹⁾

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト「花崗岩を通して、地域を考える」を受講した科学部と美術部の生徒に、受講しての感想を200字程度で書いてもらうことにしました。以下では、受講生の感想を紹介します。

太田 信 (科学部1年)

ぼくは、SPPを体験するまでは、石を彫ることにあまり関心を持っていなかったけど、SPPの体験で石を割ったり、いろいろな所へ行ってSPPの関係者および先生の方からお話をいろいろ聞いたりして、石の関心が深まりました。

そして、石への関心がSPPにより深まったのは、科学部に入ってSPPに参加し、石の説明をSPPの先生から聞いたりする経験があったらからだと思います。

桜井 翔 (科学部1年)

ぼくは、最初石のことなんか全く興味がなく、SPPをやってみるうちに、色々な種類が分かるようになり、石に興味を持ちました。あと、石を彫ったりすることがとても楽しかったです。次に石の石像を作ることになり、最初は全然どんな形になるか分からなかったけど、みんなで協力しあいながら作っていくことで、立派な石像ができるんだなと思いました。

最後に浅賀先生へ、このSPPをやることで、石の種類を教えてください、本当にありがとうございました。次に長先生へ、ぼく達のために、石はどのような物かを教えてくださいありがとうございます。この先生達のおかげで、ぼくは石を好きになりました。なので、この石像を、ぼく達が卒業しても残るような物にしたいです。

入江 友啓 (科学部2年)

僕は、家の用事や習い事があったのであまりサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトに参加することができませんでした。でも以前よりは少し石について詳しくなれたと思います。例えば地球の一番奥のマグマの手前には岩石があることや石には目があって割れやすい方向があることなど石についていろいろなことをSPPをつうじて知ることができました。特に石を彫ることが一番おもしろかったです。SPPのおかげで石の種類や特徴などに興味をもてるようになりました。なかなかできない経験だったのでとても楽しかったです。機会があればまた石について学んだりしてみたいです。

加藤 朋香 (科学部2年)

私は、このプロジェクトに参加できて、とても良かったと思っています。私の石などの知識は、学校で習った程度でした。このプロジェクトでは、石について聞くだけでなく、実際に割ったり、見たり、さわったりすることができたので、石についての理解を、さらに深めることができました。石の彫刻の方も、やってみると思ったより大変でした。けれど、たくさんやっていたうちに、うまくできるようになり、楽しくなってきました。講師の先生がたのおかげです。ありがとうございます。これからもよろしく願います。

塩野 経介 (科学部2年)

ぼくは、最初は石のことなどには全く興味がありませんでした。ですが、このSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)を通してだんだん興味を持つようになりました。最初の講座で「石はかたいけど彫れるのかなあ?」と疑問に思っていたのですが、実際にやってみると意外にもすぐに彫れて驚きました。11月

1) つくば市立手代木中学校(〒305-0035 茨城県つくば市松代5-10)

キーワード: SPP, 花崗岩, 手代木中学校, 受講生, 感想, 科学部, 美術部

3日のストーンフェスティバルでは、いろいろな石の彫刻が見られてとても良かったです。

張 成熙(科学部2年)

ぼくはSPPに行ったのしかたです。1回目では1日中たくさん新しいところが見られてよかったです。

いっしょに来てくれた研究所からの人たちからたくさんためになるお話をいただきました。また、今度はまた3回目、4回目・・・とあったらいいなと思いました。これからもSPPがあるといいと思っています。

中島 幹雄(科学部2年)

僕はこのSPPをやってみて良かったと思うことがいくつかある。

1つ目は、普段生活しているだけでは知ることのできないことを知れたことだ。例えば、11月3日にあった採石場見学で、巨大な岩石にくさびをいくつか刺し、たたいただけで石が真っ二つに割れた現象が挙げられる。この現象は、「石の目」が関係している。

2つ目は、今までやったことのないような体験をできたことだ。今回の石を割るということも、花崗岩の実物をほとんどみたことのない僕にとってはとても興味深いものだった。

原田 拓実(科学部2年)

今回のプロジェクトは、とても有意義だったと思います。それはなぜかという点、自分のあまりくわしく知らない分野である花崗岩などの色々な岩石を中心とした自然について、そしてその花崗岩を使った石彫作品作りができたからです。講座のときは、くわしくかかれた資料や実際に花崗岩などの岩石を見せて説明してくれたことが印象に残りました。その講座で疑問に思った点もくわしく調べられた内容で答えてもらったおかげでとてもくわしく知ることができました。石彫の方もまず基本的な内容から説明し、そしてその次に石を彫る特訓を細かい所までしたので、どのような彫り方をすればいいのかだいたい分かりました。でもまだまだ知らないことや、自分の知りたいことが講座でも石彫の方でもたくさんあるのでどんどんくわしくなっていきたいと思っています。

三浦 良介(科学部2年)

先日はお忙しい中、花崗岩の話をしてくださってありがとうございました。巡検でつくばの歴史や石でできている石造を説明して頂き、興味深く思いました。「ためしに彫ってみよう」の講座の時、私は都合により参加できなかったのでよくわからないのですが、友達に聞きながらでもがんばってやりたいと思います。

山里 純(科学部2年)

僕はこの「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」を体験していろいろなことを学びました。特にためしに石を彫ってみたときは「えっ、こんなに手間がかかるものなんだ」と最初は思いました。でもやっていくうちに手間をかければかけるほど作品は活かされていくものだと実際にやることで学びました。また採石場見学やストーンフェスティバルでは石がどうやって切り出されたり、作品になっていくかということなどもわかりました。この体験は科学部と美術部ならではのものだと思います。

山本 浩貴(科学部2年)

この体験は、僕にとって、とてもよい体験になりました。石の彫り方や、種類や、重さや、色などが分かりました。これまでにない、とても充実した体験でした。僕は初め、なんでこんな事をしなければならぬのか疑問をいっていました。先生達からやり方を教わっていくうちに、だんだんこの体験の良さが分かってきました。僕はこの体験を生かして、勉強や、色々な事に役立てていきたいと思っています。

荒井 友希(美術部1年)

私は、石を彫ると聞いたとき、どうやって彫るか想像が付きませんでした。だから、彫り方がわかったときに「こうやって彫るんだ」と感心してしまいました。そのあとに、花崗岩の特徴や、石の歴史についても初めて知ることばかりでした。私は、そのときにしみじみと「石にも歴史があるんだ」と感じました。そして、実際に彫ったときなかなか彫れなくて苦労しました。私は、SPPを行って貴重な体験ができて良かったです。

飯野 拓人(美術部1年)

僕は最初石ほりなんて、と思って興味がありませんでした。でも、ストーンフェスティバルに行ったり、石ほりが上達していくうちに楽しくなりました。今ではもう、ほるのに、あまり時間がかからなくなり、楽しんでできるようになりました。こういう経験も、いつか将来役に立つと思うので、がんばりたいと思います。

金子 葵(美術部1年)

私は、石彫をやってみてとても難しいと感じました。でも、浅賀先生の指導を受けて今では少し楽に彫れるようになりました。また、長先生や宮地先生、地質標本館の方々に、石についていろんなことを教わりました。そして、石の産地、水と石の関係、水の種類などを知りながら、未知の世界に入っていくような感じでした。

私は、このサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトでの体験や学習が、私にとってとても貴重なものになると思いました。

黒坂 優(美術部1年)

私は最初、全くといっていいほど、石に興味がありませんでした。でも、石を彫っていくにつれて、少しずつですが興味をもちはじめました。

はじめのころは石を彫っているとき、よく手をうってしまっていました。最近はたまにうってしまう程度に上達しました。

私達が今つくっている四季のベンチを見て楽しみ、座って楽しめるようなものに完成させたいです。

宮地 麻生(美術部1年)

私のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト、略してSPPで楽しかったのは、課外学習です。1日目の巡検でまわったときに見た五輪の塔が大きかったことや、花こう岩の上を走る白い岩脈が印象に残っています。2日目の発破を見て、結構簡単に割れるんだと思いました。発破の瞬間をムービーに撮れて嬉しかったです。午後のストーンフェスティバルでは、何に使うんだろう、とか、買い手はあるのだろうかというような大きな石のモニュメントがあって面白かったです。石のベンチの完成が楽しみです。

吉川 佐希(美術部1年)

私は、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクトで石ほりを体験して、石を自分の思いどおりにほるのがむずかしいことだと、思いました。

はじめに石をほったときは、ぜんぜんできなかったけれど、説明などをきいて、最初よりは、上手くなった気がします。

このサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトは、私にとってとても、いい体験になったと思います。

吉川 実希(美術部1年)

私は石について、初めて学びました。最初は気がぜんぜんむかなく、やる気がなかったのですが、練習をし始めて、上達していくにつれて、だんだん楽しくなっていく、今は毎日やっています。

また、野外活動などで、ストーンフェスティバルや、筑波山、浅賀先生の仕事場や、その他にも、いろいろな仕事を学んだり、見学してとてもおもしろかったです。そして今、ベンチ(春)をほってみて、手を打ったりしてしまう時もありますが、とても楽しく、他にもいろいろなことを学びたいと思いました。

荒井 翔子(美術部2年)

ついこの間まで、石への興味などは1ミリもなかった。そして、このプロジェクトが始まり先生方の話を聞いても興味がわくことはほとんどなかった。石に彫る模様を考えるときもあまり真面目にやっているわけではなかった。だから、このプロジェクトを楽しんでいるようになったのは11月の初めごろから。遠足に行っただけで初めて楽しいと感じて、石を彫り始めるとそれも楽しかった。それで私が思ったことは、「最初から、話を聞くより石彫ったほうが楽しかったんじゃないか?」とにかく、石は楽しい。

上田 玲奈(美術部2年)

私は初めて「石を彫る」と聞いたとき、「石は硬いから私には絶対無理だ。」と思いました。でも、道具を使って石を彫れると知り、びっくりしました。また、思っていたより簡単に石が彫れました。巡検では、浅賀先生の作品を見れて、とても勉強になりました。プランコを作ってしまうところがすごいと思いました。私も、石を上手に彫れるようにして、石のベンチを仕上げたいです。

金子 真奈美(美術部2年)

私は、体験の日と習い事の日とが重なっていて、体験にはなかなか行けませんでしたが、行っただけはとても充実した体験ができました。

綺麗な石を見たり、触ったり、割ったり……。普段の生活の中では、決して知ることがなかった事を知れました。

貴重な体験ができて、本当に良かったと思いました。

葛生 涼香(美術部2年)

初めて体験した石ほりがおもしろかったので、とても印象に残っています。

初めてけずった石は思っていた通りかたくて、なかなかコツがつかめなかったのですが、今石をけずると、まあまあ思うようにほれるようになったので楽しくなっています。

これから機会があればどんどん体験していきたいです。

清野 菜美恵(美術部2年)

僕はSPPに参加するまで、あまり石を表現の材料として近い物に感じていませんでした。今までは紙に描いて色を塗る作業ばかりやっていたので、硬い石に、それも3次元で創るといのは全くの未知の領域でした。でも、それだけに新鮮さもあり、自分の表現の世界を広め、深めるきっかけにもなりました。画用紙に種類があるように石にも種類が沢山あり、彫り心地が違うなどの発見も多々ありました。自分を深めるうえで、とても良い経験になったと思います。

高橋 遥(美術部2年)

私は、石を彫ると聞いたときとてもびっくりしました。人間の手であんな石なんて彫れるかと不安になりましたが、部の皆でデザインを決めるときはとても楽しかったです。部活の皆でやればできると思い始め、少しわくわくしてきました。実際に彫ってみると、意外によく彫れました。確かに石は硬いけれど、人間の手でもここまで彫れるのだと知り、おどろきました。私達二年生の作品の進行速度は遅いけれど、素敵な作品にしたいです。

高橋 美香(美術部2年)

私はこの石彫りの計画を聞いたとき、すごくおもしろそうだなと思い、わくわくしました。石を彫るなんてなかなかできないような体験ですし、石についても勉強できるからです。

実際に、彫ってみるとやっぱり楽しくて、石がどうやってできているかなどと石のロマンを知ることができました。

通事 舞香(美術部2年)

私は、初めて石をほりました。やっぱり石はかたかったです。初めは、大きな石だと思っていなかったのですが、少しびっくりしました。楽しいかなと思っていましたが、はっきりいってビミョーです。すみません。話を聞くのは、少し楽しいです。石は、難しいので、あまり楽しくないです。ほっている人を見るほうが楽しいかもしれません。石はかたいです。

Members of Science club and Arts club of Teshirogi Junior High school (2008) : Students' impressions of SPP classes.

<受付：2008年1月15日>